

河合文化庁長官 関西地区執務の拠点

京都国立博物館に「文化庁長官室分室」開設

河合文化庁長官の関西における執務の拠点となる「文化庁長官室分室」が1月25日、京都国立博物館に開設された。分室は事務棟1階の元副館長室（32平米）があてられ、霞が関の文化庁との事務連絡や関西在住の関係者や有識者との面談などに使い、秘書1人が常駐する。この日、銭谷文化庁次長、興膳京都国立博物館長立ち合いのもと、分室の看板掲げが行われた。同博物館の改築に伴い、5月以降は旧東山区役所に仮移転する。



「分室」の看板を掲げる河合長官(左)興膳京博館長

河合文化庁長官 「非常に有り難い事です。正直なところ僕は関西の人間ですから、こちらばかり来るのではと思って考えて下さった事かもしれません。関西の受け止め方は、関西も認めてもらった」と思ったより反響が大きく、一極集中でなくて「こちらの方も考えてもらっている」とえらい喜んでいて、私もよかったと思っています。折角だから関西に分室があるということがアピールできるような事を考えなさいと言っているところ。始めの意図を超えての意味があったので、それを活かしていこうと思っっています。そのうち京都が本庁になって東京が分室で、東京に時々くるようになる(笑)と冗談を言っています。昔、せめて文化庁ぐらい文化だから関西に持って来てほしいという話がありました。それに合わせた訳でないのに喜んでもらい有り難い事です。博物館も奈文研も



椅子に座り抱負を語る河合長官
国民にあり知ら
れていな
い。もっ
と活用で
きるよう
にそれは
私の役目
かと思っ
ます」